

人と生まれた
悲しみを知らない
ものは
人と生まれた
喜びを知らない

やすらぎ

護持会報告
報恩講
子供会報告

十一月三十日(日)午前十一時勤修

詳細は2頁
詳細は3頁
詳細は4頁



住職法話



孟蘭盆会勤行



孟蘭盆会

光照寺寺報

発行所
真宗大谷派 弘興山
宗教法人光照寺
〒331-0821
さいたま市北区别所町102-2
電話：048-651-2781(代)
FAX：048-651-2753
E-mail
yasuragi@beige.ocn.ne.jp
ホームページ
http://koshoji76.jp
発行人 住職 池田孝三郎

護持会総会報告

淡海雅子

二〇二四年度第二十六回光照寺護持会総会が六月二十六日(木)、十三時から光照寺本堂において開会されました。

勤行に続き全員で婦人部の皆様に合わせて仏教讃歌「真宗宗歌」を唱和しました。

引き続き総会に入り会長から護持会への協力の謝意がありました。

ご住職様から皆様のご支援で二十六回目になり、回を重ねる中で役員の顔ぶれも変わり歴史を感じます。このように護持会が存続され、今日も初めて参加の方もあり嬉しく思いますとお礼のお言葉を賜りました。

また光照寺に足を運んでいただ

ける機会になりますように様々な企画を計画しております。真宗にご縁をいただいた皆様とこの教えを味わいたいとお言葉を頂きました。

総会は平山正三氏を議長に議案に入り、前年度の護持会の活動実績及び、護持会の収支決算と監査が報告され全会一致で承認されました。今年度の活動計画案及び、今年度の収支予算案が提案され何れも原案通り可決承認されました。

活動内容として聞法会・年間行事・サークル・子供会の紹介と参加のお誘いがありました。坊守池田恵美氏が責任役員に就任されました。

絵解きサークルが「血染めの聖教」として吉崎御坊での蓮如上人の逸話として伝わる話をされました。燃え盛る炎の中で尊い命を掛けて真実の教えを後世に伝えたという話に教えの重みを感じました。

『親鸞聖人一代記』と題して三遊亭右左喜さんの落語を拝聴しました。

昨年引き続き巧みな話術で皆を笑わせ、親鸞聖人の比叡山でご修行から山を降り法然上人と出会いまでのお話をいただきました。

「親鸞蕎麦喰ひ像」の伝説には興味津々聞き入りました。

今後とも皆様方のご支援、ご協力をお願い申し上げます。



総会



婦人合唱



落語 三遊亭右左喜さん



親鸞聖人のみ教えに聞く会

- ・令和7年11月5日(水)
- ・午後1時30分～4時30分
- ・テキスト：『教行信証』
- ・講師：延塚知道先生(大谷大学名誉教授)
- ・会場：光照寺本堂
- ・会費：500円

※ご参加の方は事前に当寺へお申し込み下さい。人数を制限する場合があります。



絵解き

本年は橘出先生（新潟教区・久唱寺住職）をお迎えして報恩講を勤修

【報恩講は宗祖、親鸞聖人のご恩徳に報謝し、いのちの道理を深く尋ねる法要で、一年の中で最も大切な仏事です。真宗門徒として必ず勤める法要であり、光照寺の今年度最後の大きい法要です。是非ともご参詣下さい。】

報 恩 講

致します。ご家族、縁者お誘い合わせの上、多くの方々のご参詣をお待ちしております。

住職（釋徹照）



ひと ち 歎 異 抄

羅漢：「善信が信心も、聖人の御信心もひとつなり」とはいかに。後序



「源空が信心も、如来よりたまわいたる信心なり。善信房の信心も如来よりたまわせたまいたる信心なり。されば、ただひとつなり」

川越喜多院の五百羅漢

報 恩 講

- ・ 11月30日（日）
- ・ 午前11時～3時頃（10時30分受付）
- ・ 場所 光照寺本堂
- ・ 法要勤修
- ・ 講師 橘 出先生（新潟教区・久唱寺住職）
- ・ 講題 「南無阿弥陀仏の教えに生きている人に出遇ってください」

先生よりメッセージ：

「どんな方でも自ら念仏申すようになるまでには、私に先立って念仏申している人に出遇っていると思います。そして、いつの間にか私自身が念仏申す身となってきたのではないのでしょうか。」

さて、親鸞聖人は、私たちの歩むべき道を南無阿弥陀仏の道として示してくださった「得道の人」であります。そしてその教えによって、「帰るところ」がはっきりしているから、安心してここに居れるといえるのではないのでしょうか。その帰るべき世界・浄土について、ご一緒にたずねてまいりたいと思います。」

※準備の都合上、出席の際は、11月22日までにお寺にご連絡下さい。

- | | |
|----------|---------|
| 午前 10:30 | 受付 |
| 11:00 | 勤行 |
| 12:00 | お斎(食事) |
| 1:00 | 法話 質疑応答 |
| 3:00頃 | 終了予定 |



子供会報告

光照寺子ども会、ポニークラブ、
社会科見学(埼玉県警察本部)

大塚陽子

さる、七月二十二日(火) 小人六名大人八名の参加にて、十時半より本堂にて勤行に始まり、前坊守挨拶、参加者の自己紹介の後、各自持参したお弁当をお寺で昼食をとり、お寺でゆでたそうめんも皆んなで食べました。その後、さいたま市にある埼玉県庁内にある、埼玉県警察本部へ車で移動し、見学しました。

最初は県警PRセンターにて、女性警察官より、今年の交通事故の状況についてのお話があり、車と歩行者の交通事故が一番多いとのことでした。その後、展示してある白バイや、パトカーに試乗させてもらったり、展示品を見学しました。その後、通信指令室を見学した後、映像にてひったくりにあった後一〇番で通報し、警察官が現場に向かうまでの流れをご紹介いただきました。実際の事件さながらの状況を再現し、迅速に判断して犯人を捕まえていて、大変感心しました。私達市民の為に、安全を保持していただいているこ



埼玉県警本部にて



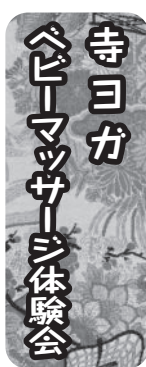
本堂にて

とを改めて感じました。
子ども達も真剣にお話を聞いた
り、体験を通して学びが得られた
と思います。
次回は、十二月二十一日(日)に
予定しています。皆様のご参加お
待ちしています。



ヨガ

お寺でヨガを毎週月曜10時～十
一時開催しています。講師はトモ
ヨ先生。ベビーマッサージ教室を
毎月第三火曜日10時～11時、開
催しています。講師は尚子先生。初
めての方も歓迎です。ご興味の方
は当寺までお問い合わせ下さい。



鈴の音

私を照らす法のない
世界には、虚しさ
と退屈だけが常にある。
(其輪秀邦『真宗門徒になる』より)



ベビーマッサージ

お知らせ

— 寺務所より —

●報恩講

十一月三十日(日)午前十一時より
勤修。講師は橘出先生(新潟教区・
久唱寺住職)

●修正会

二〇二六年一月一日元旦、午後一
時より勤修。新年を阿弥陀如来の
ご尊前より出発致します。

◆聞法会のお知らせ

●親鸞聖人のみ教えに聞く会

講師は延塚知道先生(大谷大学名
誉教授)十一月五日、午後一時三十
分〜四時三十分。『教行信証』を学
んでいます。ご参加の方は事前に
当寺へご連絡下さい。会費五百円。

●大経の会

十一月は報恩講、十二月三日。午後
二時〜午後四時。講師は住職。細川
巖著『正信偈讃仰』(七)を学んでい
ます。

●我聞の会

十一月十二日、十二月十日。午後二
時〜四時。講師は住職。『歎異抄』を
学んでいます。

●微風学舎

十月二十二日、十一月二十六日、十
二月十七日。午後二時〜四時。講師
は住職。『高僧和讃講義(三)』延塚
知道著を学んでいます。

◆真宗に学ぶついで

十二月二日、午後一時三十分〜四

時。会場は一心寺、講師は牧野豊丸
氏。

◆サークル

●絵解きサークル、十月二十七日、
十二月十五日。

◆子供会

十二月二十一日(日)。冬休み企画。

◆テラヨガ

お寺でヨガ。毎週月曜十時〜十一
時、講師トモヨ先生。興味ある方は
お問い合わせ下さい。

◆ベビーマッサージ教室

毎月第三火曜十時〜十一時、生後
二ヶ月〜一歳位までの赤ちゃん対
象。インストラクターは遠藤尚子
先生。会場はお寺。興味ある方はお
問い合わせ下さい。

◆お願い

ご自宅で法事の際は駐車場をご用
意下さい。
住所・電話番号変更の際は必ずご
連絡下さい。

俳句・川柳



おだやかに刈田の煙芳しき
吉澤 光昭

縁側は遠くなりけり衣被

振返り又来る予感大花野

火山礫踏もう眼下の谷紅葉

試走路や背にG受く秋さなか
重力

短歌(詩)

佐々木 玄吾

師の植えしつじは咲けり

桃色に

記念法座の写真飾れり

いずみ会館と名付けたまいし

師は逝きて

三十年後に念仏の子集う

篠原 潤子

伊豆の海ライフジャケット着け

泳ぐ孫娘ははしやぐ魚と出会い

猛暑中気になる文具求めゆく

銀座伊東屋三年ぶりや

年とれば食欲おちるはずなのに

七十二婆婆肥える一方

喜びは杖つき歩く駅前

コメダコーヒー食むモーニング

孫と娘でホテルのプール

二十五メートル泳ぐ七十二夏



美人林秋景
山田邦興 画

梵鐘

私は出雲地方の生れで、故郷
を離れて半世紀以上経ちます。
すでに両親や兄弟もお浄土に還
り、帰省の機会も減りました。
私の実家は代々の真宗門徒だっ
たので、私は物心つく前から念
仏を聞きながら育ちました。

今は縁あって光照寺の門徒と
なり、毎朝、お内仏に手を合わ
せております。近年、昔の実家
の勤行の様子、しきりに臉に
浮かぶようになりました。そん
な時、私はご縁を頂き仏前に導
いて下さった方々のご恩に手を
合わせます。

「自分が自分になった背景を
知る、それが恩を知ること
とである」安田理深

藤原自雄